



## 2022年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年10月4日

上場会社名 株式会社バイク王&カンパニー 上場取引所 東  
 コード番号 3377 URL https://www.8190.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 石川秋彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理部門担当 (氏名) 竹内和也 (TEL) 03-6803-8855  
 四半期報告書提出予定日 2022年10月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年11月期第3四半期の業績(2021年12月1日~2022年8月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年11月期第3四半期	24,512	24.2	1,467	2.2	2,008	25.6	1,397	30.9
2021年11月期第3四半期	19,739	20.7	1,435	126.9	1,599	111.7	1,067	118.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年11月期第3四半期	100.07		-					
2021年11月期第3四半期	76.46		-					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年11月期第3四半期	11,532	6,773	58.7
2021年11月期	9,248	5,660	61.2

(参考) 自己資本 2022年11月期第3四半期 6,773百万円 2021年11月期 5,660百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年11月期	-	5.50	-	10.00	15.50
2022年11月期	-	10.00	-	-	-
2022年11月期(予想)	-	-	-	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年11月期の業績予想(2021年12月1日~2022年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,500	22.3	1,772	13.7	2,336	32.0	1,618	32.0	115.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

※詳細は、添付資料6ページ「会計方針の変更」および「会計上の見積りの変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年11月期3Q	15,315,600株	2021年11月期	15,315,600株
② 期末自己株式数	2022年11月期3Q	1,350,072株	2021年11月期	1,350,027株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年11月期3Q	13,965,550株	2021年11月期3Q	13,965,600株

※ 期末自己株式数には、株式会社日本カस्टディ銀行（信託口）の保有する当社株式（2022年11月期第3四半期554,070株）が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和され、社会経済活動に持ち直しの動きが見られました。しかしながら、変異株による感染再拡大に加え、エネルギー価格を始めとした資源、原材料価格にとどまらない世界的なインフレ率の上昇、それに対応した先進諸国の金融引き締め策により依然として不透明な状況が続くものと予想されます。

当社が属するバイク業界におきましては、二輪免許新規取得者数が増加する等の環境変化が起きており、新車、中古車ともに需要は高まってきております。この背景には、近年のアウトドアブームに加えて、コロナ禍による人々の行動の変化としてリターンライダーや新規ライダーの増加に表れるバイク志向の高まりがあるものとみられています。

国内におけるバイクの保有台数は約1,028万台（前年比0.6%減）と前年を下回るものの、当社の主力仕入とする高市場価値車種である原付二種以上は約563万台（前年比2.5%増）と前年を上回っております<sup>※1</sup>。新車販売台数においては、約38万台（前年比15.3%増）と前年を上回り、高市場価値車種も同様に約25万台（前年比21.9%増）と前年を上回っております<sup>※2</sup>。

※1. 出所：一般社団法人日本自動車工業会(2021年3月末現在)

※2. 出所：一般社団法人日本自動車工業会(2021年実績)

このような状況のもと、当社は持続的な成長に向けて新たにコーポレートミッションとして「まだ世界にない、感動をつくる。」を掲げ、ビジョンである「バイクライフの生涯パートナー」の実現に向けて、2022年11月期から2024年11月期までの中期経営計画を策定いたしました。

本計画では、最終年度売上高315億円達成のため戦略の三本の柱となるCRM推進、整備インフラ、システムプラットフォームを軸として、設備投資、人的投資、IT投資を推進いたします。そして、営業戦略、オペレーション戦略、情報戦略、人事戦略、財務戦略によって一層の企業価値の向上と事業規模の拡大に取り組んでまいります。

上記を踏まえ、中期経営計画初年度にあたる当第3四半期累計期間は、バイクの仕入において、効果的な広告展開、人員や体制の強化に努め、高市場価値車種の中でもより需要が高い車種を確保いたしました。また、高市場価値車種の仕入台数最大化を目的にWEB広告を強化いたしました。

リテールにおいては、マーチャンダイジング施策として商品ラインアップの適正化、店舗の新規出店（5店舗）、移転・増床（2店舗）、接客力向上、売り場改善による既存店の販売力強化および通信販売の強化を推進いたしました。また、自動車学校や専門学校と連携し、お客様との接点の拡大や整備インフラの確保、当社初となる海外バイクメーカー・KTMの正規取扱店を出店いたしました。加えて、9月には店舗の新規出店（1店舗）を行いました。ホールセールにおいては、販売価格水準を維持するよう販売方法の工夫に努めました。

なお、当社のビジネスモデルを発展させ、中長期的な企業価値向上を図ることを目的に、フランチャイズ契約及び業務提携を軸にした新規事業の開発と運営を担う子会社・株式会社ライフ&カンパニーを設立し、中古四輪自動車買取・販売事業を開始いたしました。また、より多くのお客様のご要望にお応えすることを目的に、10月にバイク関連商品の販売を行う株式会社オズ・プロジェクトの株式取得（完全子会社化）を決議いたしました。

これらの取り組みの結果、リテール台数は、既存店ならびに前期に開発した店舗が好調に推移し、前年同期より大幅に増加いたしました。また、ホールセール台数は、4月以降のオンシーズンに向けて確保していた在庫を販売し、仕入も堅調であったため、前年同期より大幅に増加いたしました。車種売上単価（一台当たりの売上高）は高市場価値車種の中でもより需要が高い車種を販売したことにより、前年同期より大幅に上昇し売上高は大幅増収となり、平均粗利額（一台当たりの粗利額）はやや上昇したため、売上総利益も増益となりました。

営業利益は、リテール、ホールセールいずれも好調により増益、経常利益以降の各段階利益は、第1四半期における関連会社からの臨時的な受取配当金により、前年同期より大幅な増益となりました。

以上の結果、売上高24,512,004千円（前年同期比24.2%増）、営業利益1,467,376千円（前年同期比2.2%増）、経常利益2,008,445千円（前年同期比25.6%増）、四半期純利益1,397,600千円（前年同期比30.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べて2,182,185千円増加し、8,934,361千円となりました。これは主に、現金及び預金が2,156,734千円、売掛金が71,571千円、貯蔵品が45,081千円増加し、商品が135,470千円減少したためであります。

(固定資産)

固定資産は、前事業年度末に比べて101,723千円増加し、2,598,524千円となりました。これは、建物及び建物附属設備の増加等により「有形固定資産」が99,621千円、関係会社株式の増加等により「投資その他の資産」が99,227千円増加し、ソフトウェア償却費の計上等により「無形固定資産」が97,126千円減少したためであります。

(流動負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて1,018,484千円増加し、4,072,874千円となりました。これは主に、短期借入金が500,000千円、前受金が231,530千円、未払金が201,558千円、未払消費税の増加等により「その他」が380,531千円増加し、未払法人税等が222,604千円、賞与引当金が122,743千円減少したためであります。

(固定負債)

固定負債は、前事業年度末に比べて152,781千円増加し、686,942千円となりました。これは、長期借入金が139,460千円、資産除去債務が44,037千円増加し、長期未払金の減少等により「その他」が30,715千円減少したためであります。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて1,112,642千円増加し、6,773,068千円となりました。これは主に、四半期純利益1,397,600千円の計上と株主配当による利益剰余金の減少284,851千円があったためであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年11月期の通期業績予想につきましては、2022年9月27日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」より変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	944,217	3,100,951
売掛金	191,499	263,070
商品	5,431,779	5,296,308
貯蔵品	7,304	52,386
その他	185,018	229,307
貸倒引当金	△7,642	△7,662
流動資産合計	6,752,175	8,934,361
固定資産		
有形固定資産	853,316	952,937
無形固定資産	710,201	613,075
投資その他の資産		
その他	954,306	1,053,534
貸倒引当金	△19,150	△19,150
関係会社投資損失引当金	△1,873	△1,873
投資その他の資産合計	933,282	1,032,510
固定資産合計	2,496,800	2,598,524
資産合計	9,248,976	11,532,886
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	277,017	329,166
短期借入金	600,000	1,100,000
未払金	533,540	735,099
未払法人税等	426,504	203,900
前受金	705,062	936,593
賞与引当金	197,220	74,477
その他の引当金	4,867	4,186
資産除去債務	1,255	-
その他	308,920	689,452
流動負債合計	3,054,389	4,072,874
固定負債		
長期借入金	-	139,460
資産除去債務	233,722	277,759
その他	300,438	269,723
固定負債合計	534,161	686,942
負債合計	3,588,550	4,759,817
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	590,254	590,254
資本剰余金	609,877	1,100,229
利益剰余金	4,816,289	5,929,038
自己株式	△356,261	△846,678
株主資本合計	5,660,160	6,772,844
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	265	223
評価・換算差額等合計	265	223
純資産合計	5,660,425	6,773,068
負債純資産合計	9,248,976	11,532,886

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年12月1日 至2021年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年12月1日 至2022年8月31日)
売上高	19,739,702	24,512,004
売上原価	10,707,295	14,680,197
売上総利益	9,032,407	9,831,806
販売費及び一般管理費	7,596,829	8,364,430
営業利益	1,435,577	1,467,376
営業外収益		
受取利息及び配当金	30,400	371,051
クレジット手数料収入	114,152	140,002
その他	21,334	35,873
営業外収益合計	165,886	546,928
営業外費用		
支払利息	2,191	5,845
その他	0	13
営業外費用合計	2,191	5,858
経常利益	1,599,272	2,008,445
特別利益		
固定資産売却益	327	211
関係会社株式売却益	14,148	-
特別利益合計	14,475	211
特別損失		
固定資産除却損	0	0
減損損失	9,061	-
貸倒引当金繰入額	2,792	-
関係会社投資損失引当金繰入額	1,873	-
関係会社株式評価損	9,564	-
特別損失合計	23,292	0
税引前四半期純利益	1,590,456	2,008,657
法人税、住民税及び事業税	483,841	520,177
法人税等調整額	38,843	90,879
法人税等合計	522,685	611,056
四半期純利益	1,067,771	1,397,600

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計基準の適用における計上時期、計上方法の変更はないため、当該会計方針の変更による当第3四半期累計期間の損益および利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」

(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

(商品在庫評価減見積りの変更)

当社は商品在庫の評価として、仕入後一定期間が経過した場合、段階的に評価減を実施しております。

しかし、リテールの拡大等による車輛売上単価の上昇、バイクユーザーへの販路拡大等により、在庫期間が長期に渡る車輛であっても一定の売却実績、利益確保実績が認められたことから、売却実績等を加味したより精緻な見積り方法に変更いたしました。

この結果、従来の方と比べて、当第3四半期累計期間の売上総利益、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は121,474千円増加しております。